

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-180	14-076	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Potential for alcohol and drug interactions in older adults: evidence from the Irish longitudinal study on ageing.                      高齢者におけるアルコールと薬物の相互作用の可能性：老化に関するアイルランド縦断研究からの報告</p>		
<b>執筆者</b>		
Cousins G, Galvin R, Flood M, Kennedy MC, Motterlini N, Henman MC, Kenny RA, Fahey T.		
<b>掲載誌</b>		
BMC Geriatr. 2014 Apr 27;14:57. doi: 10.1186/1471-2318-14-57.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
薬物相互作用、アルコール相互作用薬、飲酒/疫学、高齢者		24766969
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
<p>高齢者は処方薬とアルコールの併用による副作用に対する感受性が高い。アイルランドの高齢の国民を代表する大規模データを用いて、アルコールと相互作用示す薬物（AI薬）をアルコールと併用した際の弊害を調査した。</p>		
<b>方法：</b>		
<p>老化に関するアイルランド縦断研究（TILDA）の60歳以上の高齢アイルランド人3,815例（平均年齢69.7±7.3歳、60-99歳）を対象として、横断的にAI薬とアルコールの併用の関連を検討した。AI薬はストックリー医薬品相互作用、英国国民医薬品集（BNF）とアイルランド医薬品集を用いて同定し、BNFによる9つの治療クラスに従って分類した。対象者の自己申告により、非飲酒者、軽度・適量飲酒者、多量飲酒者に分類した。社会人口統計学および健康要因と、アルコールによる増悪が知られている疾患（糖尿病、高血圧症、消化性潰瘍、肝疾患、抑うつ、痛風あるいは乳癌）も調査した。</p>		
<b>結果：</b>		
<p>参加者の72%(2,672人)は1つかそれ以上のAI薬を使用し、心血管系薬(61.2%)が最も多かった。AI薬使用者の60%が飲酒していたが、AI薬非使用者の69.5%と比較して有意に低かった (p&lt;0.001)。抗ヒスタミン薬を使用している約28%、心血管薬、抗凝固薬あるいは抗血小板薬、抗糖尿病薬を服用している約20%、中枢神経系薬を服用している16%は多量飲酒者だった。多項ロジスティック回帰により、男性、若年、都市部居住、高学歴および喫煙歴は、飲酒量に関わらずアルコール使用とAI薬の併用リスクを増大させた。現在喫煙者とアルコールによる増悪が知られている疾患を同一人が複数有していることは、多量飲酒者によるAI薬使用リスクを増大させた。</p>		
<b>結論：</b>		
<p>AI薬使用あるいはアルコールによって悪化することが知られている健康状態での飲酒が、アイルランドの高齢者間では一般的となっている。処方する者は、AI薬とアルコール併用による潜在的な副作用に気付くべきであり、患者を飲酒から遠ざけ、リスクを最小化するため、飲酒とAI薬の併用リスクを啓発する患者教育を行うことが重要である。</p>		